

山形県衛生研究所動物実験規程

第1章 総則

(趣旨及び基本原則)

第1条 この規程は、次の各号に留意し、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う職員等の安全確保の観点から山形県衛生研究所（以下、「衛生研究所」という）における動物実験等を適正に行うため、動物実験委員会の設置、動物実験計画の承認手続き等必要な事項を定めるものとする。

- (1) 「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）」、「動物愛護管理法の一部を改正する法律（平成24年9月5日法律第79号）」（以下「動物愛護管理法」という。）
- (2) 「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成25年8月30日環境省告示第84号）」（以下「飼養保管基準」という。）
- (3) 文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年6月1日）」（以下「文科省基本指針」という。）
- (4) 厚生労働省が策定した「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年6月1日（平成27年2月20日一部改正））」（以下「厚労省基本指針」という。）
- (5) 日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月1日）」（以下「ガイドライン」という。）

2 動物実験等の実施に当たっては、動物愛護管理法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）に基づき、適正に実施する。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 動物実験等 本条第5号に規定する実験動物を教育、試験研究、その他の科学上の利用に供することをいう。
- (2) 飼養保管施設 実験動物を恒常的に飼養若しくは保管又は動物実験等を行う施設・設備をいう。

- (3) 実験室 実験動物に実験操作（48 時間以内の一時的保管を含む）を行う動物実験室をいう。
- (4) 施設等 飼養保管施設及び実験室をいう。
- (5) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養または保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む）をいう。
- (6) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
- (7) 動物実験実施者 動物実験等を実施し、実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- (8) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。
- (9) 管理者 所長のもとで、施設等を管理する者をいう。
- (10) 実験動物管理者 管理者を補佐し、実験動物の管理を担当する者をいう。
- (11) 飼養者 実験動物管理者又は動物実験実施者の下で実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- (12) 管理者等 所長、管理者、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。
- (13) 指針等 飼養保管基準、基本指針及びガイドラインをいう。

第 2 章 適用範囲

第 3 条 この規程は、衛生研究所において実施される哺乳類、鳥類、爬虫類の生体を用いる全ての動物実験等に適用される。

- 2 動物実験責任者は、動物実験等の実施を衛生研究所以外の機関に委託等する場合、委託先においても、指針等に関する基本指針に基づき、動物実験等が実施されることを確認すること。

第 3 章 組織

第 4 条 所長は、動物実験計画の承認、実施状況及び結果の把握、飼養保管施設及び実験室の承認、教育訓練、自己点検、評価、情報公開、その他動物実験等の適正な実施に関して報告又は助言を行う組織として、第 4 章に定める動物実験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 4 章 動物実験委員会

（委員会の役割）

第 5 条 委員会は、次の事項を審議又は調査し、所長に報告又は助言する。

- (1) 動物実験計画が指針等及び本規程に適合しているか否かを審議すること。
- (2) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること。
- (3) 施設等及び実験動物の飼養保管状況に関すること。

- (4) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること。
 - (5) 自己点検・評価に関すること。
 - (6) その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること。
- 2 委員会は、科学的合理性の観点から審査を行い、結果を所長に報告する。また、動物実験計画の履行結果についての報告を受け、必要に応じて施設等の実態を調査し、報告、助言する。委員会において審議された内容は議事録として記録し、保存しなければならない。委員会の議事録には次の事項を含む。
- (1) 委員会の開催日時及び場所
 - (2) 委員会に参加した委員の氏名
 - (3) 委員会での審議内容

(委員会の構成)

第6条 委員会は所長が任命した委員により構成する。委員は、動物実験等を行う研究者、実験動物の専門家、その他の学識経験を有する者から任命することとし、その役割を全うするのに相応しい見識を有する者となるよう配慮し、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 各部の部長又はその代理の者（各部1名、合計3名）。
- (2) その他必要に応じて所長が指名する者若干名。

(委員長等)

第7条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する。
- 3 委員長、副委員長の指名は、所長が行うこともできる。
- 4 委員長は、委員会を主宰する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある時は、その職務を代行する。
- 6 委員会は委員総数の3分の2以上の出席を必要とし、議事は3分の2以上の賛成をもって決する。

(委員の任期)

第8条 所長は、第6条に掲げる者を委員に任命する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任を妨げない。

(担当事務)

第9条 委員会に関する事務は、委員長の属する部が行う。

- 2 担当事務は、委員会開催に関する議事録等の作成及び保存等を行う。

第5章 動物実験等の実施

(動物実験計画の立案、審査、手続き)

第 10 条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、次に掲げる事項を踏まえて動物実験計画を立案し、所定の動物実験計画書(様式 1)を所属する部の部長を経由して、速やかに所長に提出しなければならない。

- (1) 研究の目的、意義及び必要性。
- (2) 代替法を考慮して、実験動物を適切に利用すること。
- (3) 実験動物の使用数削減のため、動物実験等の目的に適した実験動物種の選定、動物実験成績の精度と再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮すること。
- (4) 苦痛の軽減により動物実験等を適切に行うこと。
- (5) 苦痛度の高い動物実験等、例えば、致死的な毒性試験、感染実験、放射線照射実験等を行う場合は、動物実験等を計画する段階で人道的エンドポイント(実験動物を激しい苦痛から解放するための実験を打ち切るタイミング)の設定を検討すること。

2 所長は、動物実験責任者から動物実験計画書の提出を受けたときは、委員会の審査を得て、その承認、非承認を決定し、部長を通して動物実験責任者に通知する。

3 動物実験責任者は、動物実験計画について所長の承認を得た後でなければ、実験を行うことができない。ただし、所長が緊急検査と認めた場合はこの限りではない。

4 承認を受けた動物実験計画の変更等をする場合(様式 2)も前項と同様にする。

5 動物実験責任者は、動物実験を終了し、又は中止したときは、動物実験終了(中止)報告書(様式 3)を部長を経由して所長に提出しなければならない。

6 委員は、動物実験計画に関して知り得た情報を第三者に漏らしてはいけない。

7 委員は、自ら関係する動物実験計画の審査に加わってはならない。

(実験操作)

第 11 条 動物実験実施者は、動物実験等の実施に当たって、動物愛護管理法、指針等に即するとともに、特に以下の事項を遵守すること。

- (1) 適切に維持管理された施設等において動物実験等を行う。
- (2) 動物実験計画書に記載された事項及び次に掲げる事項を遵守する。
 - イ 適切な麻酔薬、鎮痛薬等の利用
 - ロ 実験の終了の時期(人道的エンドポイントを含む)の配慮
 - ハ 適切な術後管理
 - ニ 適切な安楽死の選択
- (3) 安全管理に注意を払うべき実験(物理的、化学的に危険な材料、病原体、遺伝子組換え動物等を用いる実験)については、関係法令等及び衛生研究所における関連する規程等に従う。
- (4) 物理的、化学的に危険な材料又は病原体等を扱う動物実験等について、安全のための適切な施設や設備を確保する。
- (5) 実験実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努める。

- (6) 侵襲性の高い大規模な存命手術に当たっては、経験等を有する者の指導下で行う。
- 2 動物実験責任者は、動物実験計画を実施した後、動物実験結果報告書（様式4）により、使用動物数、計画からの変更の有無、成果等について部長を経由して所長に報告すること。

第6章 施設等

(飼養保管施設の新たな設置)

- 第12条 飼養保管施設を新たに設置（変更を含む）する場合、管理者は「飼養保管施設（設置・変更）承認申請書」（様式5）を提出し、所長の承認を得ること。
- 2 所長は、申請された飼養保管施設を委員会に調査させ、その助言により、承認または非承認を決定する。

(飼養保管施設の要件)

- 第13条 飼養保管施設は、以下の要件を満たすこと。
- (1) 適切な温度、湿度、換気、明るさ等を保つことができる構造等とすること。
 - (2) 動物種や飼養保管数等に応じた飼育設備を有すること。
 - (3) 床や内壁などが清掃、消毒等が容易な構造で、器材の洗浄や消毒等を行う衛生設備を有すること。
 - (4) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有すること。
 - (5) 臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。
 - (6) 実験動物管理者がおかれていること。

(実験室の新たな設置)

- 第14条 飼養保管施設以外において、新たに実験室を設置（変更を含む）する場合、管理者は「動物実験室（設置・変更）承認申請書」（様式6）を提出し、所長の承認を得ること。
- 2 所長は、申請された実験室を委員会に調査させ、その助言により、承認または非承認を決定する。

(実験室の要件)

- 第15条 実験室は、以下の要件を満たすこと。
- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し、実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。
 - (2) 排泄物や血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易な構造であること。
 - (3) 常に清潔な状態を保ち、臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。

(施設等の維持管理及び改善)

第 16 条 管理者は、実験動物の適正な管理並びに動物実験等の遂行に必要な施設等の維持管理及び改善に努めること。

(施設等の廃止)

第 17 条 施設等を廃止する場合、管理者は「施設等廃止届」(様式 7)を所長に届けること。

2 管理者は、必要に応じて、動物実験責任者と協力し、飼養保管中の実験動物を他の飼養保管施設に譲り渡すよう努めること。

3 やむを得ず実験動物を殺処分しなければならない場合にあっては、動物の殺処分方法に関する指針(平成 7 年 7 月総理府告示第 40 号)に基づき行うよう努めること。

第 7 章 実験動物の飼養及び保管

(マニュアルの作成と周知)

第 18 条 管理者及び実験動物管理者は、飼養保管のマニュアルを定め、動物実験実施者及び飼養者に周知すること。

(実験動物の健康及び安全の保持)

第 19 条 実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者は、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の保持に努めること。

(実験動物の導入)

第 20 条 管理者は、実験動物の導入に当たり、関連法令や指針等に基づき適正に管理されている機関より導入すること。

2 実験動物管理者は、実験動物の導入に当たり、適切な検疫、隔離飼育等を行うこと。

3 実験動物管理者は、実験動物の種類、習性等を考慮した飼養又は保管を行うための環境の確保を行うこと。

(給餌・給水)

第 21 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験動物の生理、生態、習性等に応じて、かつ、実験等の目的に支障を及ぼさない範囲で適切に給餌・給水を行うこと。

(健康管理)

第 22 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病を予防するため、実験動物に必要な健康管理を行う。

2 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病にかかった場合、実験動物に適切な治療等を行う。

(異種又は複数動物の飼育)

第 23 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養、保管する場合、その組み合わせを考慮した収容を行う。

(記録の保存及び報告)

第 24 条 実験動物管理者は、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録を整備、保存すること。

2 実験動物管理者は、年度ごとに使用した実験動物の種類と数等について、「実験動物使用状況報告書」(様式 8)により所長に報告すること。

(譲渡等の際の情報提供)

第 25 条 管理者等は、実験動物の譲渡に当たり、その特性、飼養保管の方法、感染性疾患等に関する情報を提供すること。

(輸送)

第 26 条 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止に努めること。

第 8 章 安全管理

(危害防止)

第 27 条 実験動物管理者は、逸走した実験動物の捕獲の方法等をあらかじめ定めること。

2 実験動物管理者は、人に危害を加える等の恐れのある実験動物が施設等外に逸走した場合には、速やかに関係機関へ連絡すること。

3 実験動物管理者は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者が、実験動物由来の感染症及び実験動物による咬傷等に対して、予防及び発生時の必要な措置を講じること。

4 実験動物管理者は、毒へび等の有毒動物の飼養又は保管をする場合は、人への危害の発生の防止のため、飼養保管基準に基づき必要な事項を別途定めること。

5 実験動物管理者は、実験動物の飼養や動物実験等の実施に関係のない者が実験動物等に接触しないよう、必要な措置を講じること。

(緊急時の対応)

第 28 条 管理者は、地震、火災等の緊急時に執るべき措置の計画をあらかじめ作成し、関係者に対して周知を図る。

2 管理者は、緊急事態発生時において、実験動物の保護、実験動物の逸走による危害防止に努める。

第 9 章 教育訓練

第 29 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、以下の事項に関する所定の教育訓練を受けること。

- (1) 関連法令、指針等、当所の定める規程等
 - (2) 動物実験等の方法に関する基本的事項
 - (3) 実験動物の飼養保管に関する基本的事項
 - (4) 安全確保、安全管理に関する事項
 - (5) その他、適切な動物実験等の実施に関する事項
- 2 委員会は、教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者の記録を保存すること。
- 3 委員会は、教育訓練を実施したときは、その旨を所長に報告すること。

第 10 章 自己点検・評価・検証

第 30 条 所長は、委員会に、基本指針への適合性に関し、自己点検・評価を行わせる。

- 2 委員会は、動物実験等の実施状況等に関する自己点検・評価を行い、その結果を所長に報告する。
- 3 委員会は、管理者、動物実験実施者、動物実験責任者、実験動物管理者並びに飼養者等に、自己点検・評価のための資料を提出させることができる。
- 4 所長は、必要に応じて自己点検・評価の結果について、衛生研究所外の者による検証を受けるよう努める。

第 11 章 情報公開

第 31 条 管理者は衛生研究所における、動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程、実験動物の飼養保管状況、自己点検・評価、検証の結果等の公開方法等）を毎年 1 回程度公表する。

第 12 章 補 則

(準用)

第 32 条 第 2 条第 5 号に定める実験動物以外の動物を使用する動物実験等については、飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努める。

(適用除外)

第 33 条 畜産に関する飼養管理の教育若しくは試験研究又は畜産に関する育種改良を目的とした実験動物（一般に、産業用家畜と見なされる動物種に限る）の飼養又は保管及び生態の観察を行うことを目的とした実験動物の飼養又は保管については、本規程を適用しない。

(雑則)

第 34 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成25年9月1日改正
- 3 平成28年12月6日改正